

試験研究成果普及情報

部門	森林保全	対象	普及
課題名：タケノコをイノシシから守る簡易電気柵及び竹防護柵			
<p>[要約] 簡易電気柵は、資材費が安く設置も簡単で、イノシシに対する防護効果が高い。枯竹等の管理は必要であるが、雑草による漏電の心配が小さい。また、竹防護柵は、設置に労力を要するが、資材費と管理費用が掛からず防護効果も高い。竹林整備の間伐竹の処理と獣害軽減の両方が図られ、非常に合理的である。</p>			
キーワード：イノシシ、簡易電気柵、竹防護柵、獣害、竹林整備			
実施機関名	主 査 農林総合研究センター・森林研究所 協力機関 農林総合研究センター・暖地園芸研究所・環境研究室、 夷隅農林振興センター、安房農林振興センター、君津農林振興センター		
実施期間	2006年度～2008年度		

[目的及び背景]

千葉県では、平成 19 年度の野生獣類による農作物の被害金額が約 2 億 9 千万円と大きな被害を受けている。このうち、サルやシカによる被害は近年、減少傾向にあるものの、イノシシによる被害は約 1 億 8 千万円（獣害全体の 61.9%）と急増し、被害地域も県中南部で拡大を続けている。イノシシの被害作物は稲、特用林産物、野菜、果樹など多種類に及ぶが、その中でも、千葉県の代表的な特産品の一つであるタケノコの被害は、大きな問題となっている。そこで、イノシシによるタケノコ被害を軽減する方法として、簡易電気柵と竹防護柵の効果を明らかにする。

[成果内容]

1 簡易電気柵

- (1) タケノコ生産地に試験的に設置した簡易電気柵は、資材費が 100m 当り約 2 万円と非常に安価で、設置も簡単である（写真 1、表 1）。
- (2) 設置した簡易電気柵は調査期間においてイノシシの侵入がなく、防除効果が認められる。

2 竹防護柵

- (1) 竹林整備で伐採した竹を周囲に積み上げて作る竹防護柵は、資材費がかからないが、伐竹・積上げに労力を要する（写真 2）。
- (2) 設置した竹防護柵はイノシシの侵入が認められず、竹林を整備する場合には、間伐竹の処理と獣害の軽減の両方が図られ、非常に合理的である。

[留意事項]

- 1 整備されていない竹林では簡易電気柵の電線を張る際に、漏電しないように事前の竹林整備が必要である。また、設置後も枯竹が倒れて漏電する恐れがあるため、十分な管理が必要である。

2 竹防護柵の設置は、傾斜が急で、立竹密度も高い竹林では、特に労力を要する。

[普及対象地域] 県中南部（イノシシの被害が発生している地域、タケノコ生産地域）

[行政上の措置]

国、県による防護柵設置の補助事業を有効に活用する。

[普及状況]

簡易電気柵は、一部のタケノコ生産者が導入している。

[成果の概要]



写真1 簡易電気柵の設置状況



写真2 竹防護柵の設置状況

表1 簡易電気柵と竹防護柵の設置経費及び効果（現地実証試験結果）

試験区	資材費 (円 / 100m)	設置労力 (のべ時間・人 / 100m)	設置後の 管理	イノシシ被害の 有無
簡易電気柵	20,790	4.3 ~ 11.3	やや容易	侵入なし
竹防護柵	0	20.4 ~ 186.7	容易	侵入なし
無処理	0	-	-	食害発生

注) 調査は、簡易電気柵5か所、竹防護柵3か所で平成19年12月～平成20年4月に実施した

[発表及び関連文献]

- 1 平成20年度試験研究成果発表会（林業部門）
- 2 タケノコを食害するイノシシに対する簡易電気柵及び竹防護柵の効果、関東森林研究、第60号（投稿中）

[その他]

千葉県野生鳥獣対策本部「農林作物の野生鳥獣被害軽減化技術の開発」（平成18～21年度）